

第5回 燕市都市計画マスタープラン策定委員会 会議録

1. 日 時

令和4年10月18日（火）13:30～15:30

2. 場 所

燕市役所 3階 301会議室

3. 出席者（敬称略）

【委員】 9名

長岡技術科学大学 准教授	松川 寿也
新潟工科大学 教授	樋口 秀
燕市自治会協議会 会長	田邊 一郎
燕商工会議所 副会頭	藤田 進
吉田商工会 理事	小林 理恵子
分水商工会 女性部副部長	本田 裕美
新潟かがやき農業協同組合 経営管理委員	酒井 喜代太
一般社団法人燕市観光協会 会長	山崎 悦次
公益社団法人新潟県宅地建物取引業協会	横山 正憲
西蒲・燕支部 副支部長	

【オブザーバー】 1名

新潟県三条地域振興局 地域整備部長	上村 康司
-------------------	-------

【事務局】 5名

4. 次 第

1. 開会
2. あいさつ
3. 協議事項
 - (1)前回のふりかえり
 - (2)実現化方策について
 - (3)素案の確認について
4. その他
5. 閉会

5. 議事概要

1. 開会

事務局より開会のあいさつ

2. あいさつ

(松川委員長)

- ・長岡技術科学大学の松川でございます。第5回の燕市都市計画マスタープラン策定委員会の開催にあたり一言ご挨拶を申し上げたいと思います。
- ・本日はお忙しい中お集まりいただきまして大変ありがとうございます。前回8月に開催した第4回に引き続きまして第5回目の会議となります。今回の検討事項につきましては実現化方策と都市計画マスタープランの素案についてご協議をいただきます。
- ・実現化方策ではこれまで皆様からご議論・ご協議いただきました都市計画マスタープランの内容を実現するために必要な役割分担や運用の仕方を整理してお示しいたします。
- ・また、素案につきましては昨年度、全体構想までお示した中間とりまとめに、前回ご協議いただきました地区別構想と、本日の検討事項でございます実現化方策を含んだ都市計画マスタープラン全編の素案として作成をしております。本日は中間とりまとめからの変更点や前回の協議内容からの変更点についてご説明をさせていただきまして内容のご確認をいただいたうえで素案を完成させたいと考えております。
- ・都市計画マスタープランの改定作業も大詰めを迎えていまして、皆様にお集まりいただく策定委員会の場も本日で一区切りとなります。ご出席いただいている委員の皆様におかれましては、ぜひご活発なご議論を頂戴いただきまして大変有意義な会議となりますよう、ご協力をお願い致します。以上、開会の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いたします。

3. 協議事項

(1) 前回のふりかえり

事務局より配布資料 P2～P4 を説明。

(松川委員長)

- ・それでは事務局よりご説明いただきました内容につきまして、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。前回のふりかえりにつきましてご意見ご感想等ございますか。
- ・前回私が話した意見ですけれども、13地区を3地区にまとめられたということで、協議会を超えた連携が必要となる場合が想定される、というポジティブな理由が示されていますので、これでネガティブな悪い印象は与えないとは思っています。非常に良いと思えました。
- ・他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは次の議事に進めさせていただきますと思います。

(2) 実現化方策について

事務局より配布資料 P5～P13 を説明。

(松川委員長)

- ・事務局からご説明ありましたけれども、この内容についてご意見を頂戴したいと思えます。マスタープランを実現するための手段と言いますか、いくつか実現化方策が挙げてございます。
- ・8 ページ目の協働のまちづくりの手法・制度の活用の例として中心市街地再生モデル事業のご説明がございました。よくよく読んでいくと新潟工科大が入っているということで、せっかくの機会ですので樋口先生の方から補足のご説明をぜひよろしくお願いします。

(樋口委員)

- ・8 ページにありますクロスロード宮町でございますが、「つばめいと」の方から工科大学に相談がありまして、ここを拠点に活動したいのだけでも若い視点を取り入れながらやって行きたいというご要望がありました。倉知准教授の研究室の学生を中心にたくさんの学生が、宿泊施設に泊めていただいたり、また、「つばめいと」や地域の皆さんと一緒にまち歩きをしたり資源を探したりする中で、資料の写真に写っている広場の左側に工科大生が作った屋台が入っていたりしますが、イベントの後方支援をしたり、直接参加させていただきながら展開させていただいております。
- ・本学には燕出身の学生も居ますが、新潟県出身の学生がたくさん来ております。設計の講義で中心市街地の再生ということで併用住宅の設計などもあります。実際にはなかなか実現はしませんので、こういった宮町で地域の皆さんと一緒に考えるというのは学生にとっても非常に良い機会を与えていただきまして、本当にありがとうございます。
- ・「つばめいと」の皆さんをはじめ一生懸命このエリアの再生を検討されていますが、そこに若い視点が入るというのは良い事かと思えます。実現化方策の一つとして挙げていただいておりますので、今後の展開を我々も期待しております。

(松川委員長)

- ・事務局の方からもこれに関して何か追加がありますでしょうか。

(事務局)

- ・事務局の方から、中心市街地再生モデル事業の進捗状況についてご説明させていただきます。
- ・中心市街地再生モデル事業につきましては、先ほどご紹介がありました株式会社つばめいとさんが宮町付近の開発を行うというものでございます。8 ページの中央に開発のイメージ図がございまして、そちらをご覧くださいなのですが、主に道路の上の方に緑色の部分がございますが、こちらが開発区域になっております。既存の店舗や住宅があるのですが老朽化などもありますので、こちらをいったん解体しまして新規店舗を立ち上げるという計画になっております。
- ・右側の緑色の部分につきましては、現在の本屋さんに加えて新しく料理ができるキッチンコーナーができるようになっております。
- ・真ん中の緑色の部分はテナントが入ることです。左側についてもまだ決まっておりますがテナントを募集するエリアとなっております。

- ・それから道路を挟んで下側の方ですが、こちらの黄色い部分に宿泊施設がございます。その隣が先ほど樋口先生からご説明がありましたイベント広場になっています。こちらにつきましても今後様々な利用を考えて地域を盛り上げていくという計画になっています。
- ・こちらにつきましては国の方から整備に関する補助金の交付を受ける事業となっております。その事業が令和5年度当初から始まるということで、来年度この辺の解体から建設という工事が進んでいくという流れとなっております。

(松川委員長)

- ・ありがとうございました。なかなか素敵な取組ですので、ぜひそこから人との交流が広がっていくと良いのかなと思います。
- ・実現化方策につきまして何かございますか。感想でも結構です。

(山崎委員)

- ・今までの説明や文章について、非常に良くできていると私は思っています。
- ・このまちに観光も重要だし、就職も重要だと思います。そんな中、今年の「工場の祭典」は最高に人が入りました。特に私共の所に来られた方は、大学生や留学生達が多く、それは素晴らしいということで、できれば卒業したら燕に居たいということでした。
- ・旧燕市にはほとんど観光が無く、分水の桜並木などに観光資源は頼りきっている形です。ならばどうするかということを見ると、ものづくり産業も観光資源だということで、近隣の国の人達を呼び込むなど、我々も産業界としてチームで動いていく事を考えて行きたい。特に若い人や女性をメンバーに入れてやっていきたいと思います。私はそろそろ年が年ですので、いずれリタイヤさせていただきたいと思っておりますが、若い人も本当に一生懸命やっているといます。

(松川委員長)

- ・ありがとうございました。事務局から何かございますでしょうか。

(事務局)

- ・いろいろお褒めの言葉もいただきましてありがとうございます。
- ・お話の中で、ものづくりも観光の一部で非常に重要だというご意見をいただきました。まさにその通りだと思いますし、そういった部分も反映してこのマスタープランに記載してございます。そういった事も踏まえて、市の方としても取組を進めて行きたいと思っております。

(樋口委員)

- ・7 ページに多面的機能支払交付金事業というものが記載されています。これが実現化方策の中に位置づけられていますが、農地維持支払交付金と地域の皆さんの共同活動の支援ということですか。燕も農業の方がたくさんおいしいお米を作ったりされていますが、実情としてうまく回っているのでしょうか。人手が足りているのかどうかというのが気になる所ではあります。先ほども若者とかいろいろなキーワードが出ていましたが、聞くところ

ろによると地域の皆さんだけでは手が足りないという話を聞く所もあります。燕市さんの場合はどうでしょうか。

(事務局)

- ・燕市の中でも後継者不足といった事は重要な問題になっておりまして、担い手が居ないといった話が出ているところがございます。ただ、多面的機能支払交付金の事業や、市の方でも若手事業者のバックアップを進めている事もありまして、若手の方で大規模な農地を拡げてこれから担い手となっていくといった農家さんの話も聞いております。これからさらに担い手を増やしていくといった活動を市としても支援していく必要があると思っております。

(樋口委員)

- ・水路とか農道等の管理と書かれていますが、そういった直接農業を支援するのではなくて農地を維持するために必要な水路・農道の草刈りや泥上げなどの手が足りないので、補助金を使って担い手以外の方を雇用して作業をするという、補助金を使ってコミュニティをもう少し盛り上げて行こうというお話だと聞いております。ですので、そこにもう少し燕らしく、先ほど若者というような話もしましたけれども、何かうまく農業以外の方、関係人口を広げながら事業展開できないかなと、柏崎の方でも考えております。せっかくの交付金ですので、交付金に上乘せのような形で市のオリジナルな事ができたりすると、先ほど山崎さんがおっしゃったように産業界、工業と農業がセットで取組ができると燕市さんらしく魅力的な実現化方策に繋がると思いました。

(小林副委員長)

- ・ただいま樋口先生が農業の事をおっしゃいましたけれども、工場の祭典の当事者の藤田さんもいらっしゃいますが、燕市の工場の祭典というのは“こうば”という読み方があってそれを3つに広げて、工場の“工場”と耕すの“耕場”、購買の“購場”です。そことも連携が取れるはずですので、やったらおもしろいと思いました。
- ・それともう1つですが、私たちは実際農家ではないし、農業をやっていないので絵に描いた餅かもしれないので、酒井委員や田邊委員のお話を聞きたいところですが、燕市モデルみたいなものがないかと思えます。
- ・たまたま今うちの娘が農家をやりたくて全国の農家さんを回っているんですけども、ウーフ(WWOOF)という支援団体がありまして、そこに働き手として登録します。ウーフでは働き手を募集している全国の農家さんが登録していて、そこから選んで娘は岡山から青森くらいまで1年半程いろんな所に行っています。そういう燕市モデルがこの交付金プラスアルファでできるのであれば、おもしろいと思いました。ただ、それにはリーダーが必要になります。組合をつくってられる農家の中にも元気な担い手の方もいらっしゃると思えますので、そういう事までできたら実現できるのではないかと思います。

(松川委員長)

- ・関連して酒井委員からも一言お願いします。

(酒井委員)

- ・今言われた多面的機能支払交付金は、農林水産省の補助事業でございまして元々農家の人達の担い手がいっぱいおられたんですけれども、段々集約化されてきて規模が大きくなって農作業自体を担う人たちが少なくなっているのです、農業者を中心として周りの地域住民と一緒に水路の泥上げとか草刈とかをやりましょう、というのがスタートです。平成 19 年からスタートして概ね 15 年経ちますが、5 年ごとに内容の見直しをして現在に至っています。燕市全域で 1 つの事務局を作ってそこが中心に、いくつかの集落をほとんど網羅してやっている事業です。反当たりいくらという補助金の出し方なので、多い所と少ない所といろいろあります。
- ・あと問題は、補助金なので報告書やいろいろな作業がある訳ですが、パソコンを使えないとなかなか資料整理とかできないもので、地域では結構苦勞しています。そういった事務をできる人たちが少ないと言いますか、そういう意味で大変です。
- ・あくまで農作業に対して使える補助金なので、地域住民と一緒に農作業をやりましょうというのはできると思いますが、例えばこれで神社や公園の関係をやるということは補助金の使い方としてできないです。そういう意味では、いろいろ工夫したやり方としては難しいと思います。それでも今まで農道の砂利舗装とか、お金がかかって地域で買えないものが継続してできてきているので、農業集落としては喜んでいきます。地域によっていろいろと使い方はあるとは思いますが、結構高齢者の方たちが出てきているのでそういった意味では、農家の高齢化とそれを含めた事務作業を担う人達、草刈と泥上げ作業をする人達として、地域の農業以外の人達、若者の手を借りる事ができれば非常にありがたくて発展していけるんじゃないかと思えます。いずれにしても、農地を守るというのがこれから必要になってきますので、そういった風に考えています。

(松川委員長)

- ・今のご議論に関連しまして、田邊委員から何かございましたらよろしくお願ひします。

(田邊委員)

- ・今、酒井委員が言ったように多面的機能支払交付金は農水主体で補助金が出ている訳ではありますけれども、燕市には大体 3 億 2 千万から 3 億 5 千万くらい国の補助金をいただいています。うちの所も 84.3 ヘクタールの基盤整備事業をしまして、令和 3 年の 9 月に終わりをしまして、花角知事から基盤整備事業の記念碑を書いていただきましたので 11 月 12 日にお披露目したいと思います。
- ・今は多面的機能支払交付金については酒井委員が言われたように農地維持のために得ているお金でございまして、燕市も有効に使っている訳でございします。
- ・クリーンデー(清掃活動)を年に 2 回、4 月と 10 月に計画して、うちの町内は戸数 730 戸、人口にして 1,912 人、65 歳以上が 695 人居ますが、回覧板を回してもクリーンデーに参加する人達は 20 人くらいしか居ない状況です。
- ・小林委員が言われた農地と農業をしたいという人たちが来るには、米作りだけではあまり居ないのではなかろうかと思えます。うちも法人にして従業員が 30、40 人いますが、今

一番燕市で成功しているのが吉田本町ではなかろうかと思います。この多面的機能支払交付金は十分助かっています。

(松川委員長)

- ・この事業に関連して事務局の方から何かコメント等、ございますでしょうか。

(事務局)

- ・多面的機能支払交付金の事業自体、先ほどもお話がありました。農地の維持管理がメインのものにはなるものです。資料7ページの右下の方、資源向上支払交付金の支援対象の中にもあります通り、農村集落の伝統の継承といったところにも事業的には使えるので、地域のコミュニティ強化や、農家の方だけではなくて非農家の方を巻き込んだ取組が十分できるのではないかと思います。こういったところも含めて担当課の方でも事業を行っておりますので、今日いただいた意見を担当課とも詳しく話をしながら、都市計画マスタープランとしてどういった位置づけ、書きぶりにするか調整をさせていただければと思います。

(本田委員)

- ・今ほどの話を聞いていると、若い人や外からの人達をたくさん呼びたいという話が出てきていて、クロスロード宮町がすごく良い計画を立てたなあと思います。というのも、宿泊施設がこの中に1つあるというのが外からの人を入れやすい状況を作っていると思いました。なので、農家の方でも産業をされている方でも、次の担い手の方を育てて行きたいのであればこういった安く泊まれる施設、長期で泊まれるような施設があると一段といろいろな人を呼びやすくなるのではないかと思います。施設ができなければ、例えば民間のお宅で宿泊してもらう方法でも。意外といろいろなものづくりをやりたいという人は外にたくさんいらっしゃるので、そういう方法で引き込める状況ができれば良いのではないかと思います。

(松川委員長)

- ・事務局いかがでしょうか。

(事務局)

- ・貴重なご意見ありがとうございます。先ほどお話しにあったインターン用の宿泊施設が既にある訳ではございますが、その他にも宮町界限にはいろいろな人が入って来まして、空き家を買って民泊のようなものを行っている所もありますので、そういったものも活用しながら、工業、産業だけでなく農業も含めて今の既存の宿泊施設のような活用ができないか検討を進めて参りたいと思います。

(藤田委員)

- ・食の関係また、宿泊施設があった方が良いのではないかという件について、商工関係からすると山崎委員からも出ましたが、工場の祭典がありまして、食とものづくりを全国に発

信しようということで燕と三条が共同で行っている事業です。このイベントもずいぶんと浸透してきたということで、大幅に見直しをしようという話も出て来ているらしいです。

- ・全国的に燕三条がオープンファクトリーという部分ではモデル地区にもなっていますし、最近ではコロナでアウトドアがブームになって、アウトドアの道具を作っているメーカーさんがいっぱいあるので、燕三条がアウトドアの聖地ではないかと。我々はどちらかという食に関わる製品を作るメーカーとそれに携わる方が多いですが、食文化を交流させながらものづくりをやっている産地として全国的に見ても一番発信できています。
- ・また、アウトドアも1つのブームでいくらかでも発信できる部分が出てくると思います。特に食文化とものづくりという部分では、これからコロナも落ち着いてインバウンドで外国の方に燕三条に来ていただけるような体制づくりが重要だと思います。
- ・前も少し話が出ました、燕三条駅と三条燕インターというのが隣接しているのは、この地域だけだと思います。交通インフラは飛行機が揃えば一番良いでしょうが、優位性を活かせたらと思います。
- ・観光の部分でぜひとも今後プラスアルファで宿泊施設が必要。当然空き家対策などで使うのもすごく良いと思いますが、そこそこ有名な宿泊施設が1件でも誘致できると良い。南魚沼市の里山十帖がすぐに満室になるといった話が新聞に出ていましたが、刺激ある宿泊施設が誘致できるともっと燕市を地域的に発信できると思いました。

(松川委員長)

- ・事務局いかがでございますでしょうか。

(事務局)

- ・食とものづくりを連携させてそれを観光振興に活かしていくべきだというご意見をいただいたと思います。ご指摘の通りでございますし、マスタープランにもそのような形で記載させていただいている事と思います。我々も担当部署に持ち帰りまして、具体的に検討を進めて参りたいと思っております。
- ・また、宿泊施設の問題につきましては核となる宿泊施設が必要だということもありましたので、そこも持ち帰りまして今後の施策で検討して参りたいと思います。

(酒井委員)

- ・宿泊施設の話がいろいろ出ていたので、私の知り得る情報を紹介します。
- ・全国的には農家が人を呼び込んで農家民宿という形を他の市町村では結構やっています、ヨーロッパ型のクライנגルテンという体験型の農業です。宿泊施設に農地が付いていて農業をやりながら1週間くらいそういった企画をやっている所もあります。クライングルテンが一番近い所では、小千谷市の事例があります。
- ・体験農業で来られた人と、工業団地のオープンファクトリーを連携させながらいろいろやるとおもしろいと思うんですが、かなりの企画力と行動力があると思うので、その辺また事務局の方でいろいろ考えていただければと思います。

(松川委員長)

- ・私の方から 1 点だけ。11 ページの実現化方策の SDGs への貢献ということで、これは本当にやらなくてはならない取組ということで、全体構想の 5 ページでも社会経済情勢の変化で SDGs の取組の流れがとても大事です、と書いてあります。そのためにも、この (5) の SDGs の貢献が挙げられていると思いますが、これは大変大事な取組で、実は我々の長岡技大でもやっていますし、いろんな自治体と言いますか県内の商工会議所や公共団体からも SDGs 宣言みたいなものを作るご相談が寄せられています。
- ・この表は、それぞれの分野別方針、土地利用から観光・文化・スポーツ・レクリエーションについて具体的な取組事例があって、それに関連性の強い SDGs の 17 のゴールが紐づいて出てきていますが、なんでこれなのかな、というのが私にはよくわからない所があります。例えば土地利用で言いますと、ゴール 15 の「陸の豊かさも守ろう」は、かなり土地利用に近い目標のような気がしますが入ってなくて、ゴール 17 が出てくる意図も理解できていなかったりします。ゴール 11 の「住み続けられるまちづくりを」は当然全部入ってくるのかと思ったら、なぜかこれが交通体系に出てきていないということで、当然公共交通がちゃんとしていないと住み続けられるまちにはなりませんので、それが入っていないのはなぜなのかな、と疑問に思った次第です。
- ・ゴール 12 の「つくる責任つかう責任」、これが取組のどれに関連しているのか私もよくわからなくて。私も高校生に都市計画と絡めて SDGs の話をしているときに空き家の問題が出ておりますので、空き家が発生しないためにも家を建てたら最後まで丁寧に使いましょう、それが SDGs のゴール 12 のに繋がるんだよ、という話もしたりもしているので、ここに挙がっている SDGs のゴールが本当にこれで良いのか気になった次第です。
- ・私からの意見はそれくらいです。それ以外は非常にまとめられている素案だと思います。

(事務局)

- ・私どもも SDGs の理解度がなかなか進んでおらず、関連性が強い部分について設定をしていますが、改めて関連性を見直しまして、どの部分が本当に必要なのかを改めて整理させていただきたいと思います。ご指摘ありがとうございます。

(松川委員長)

- ・他いかがでございますでしょうか。特になければ次の協議事項に進めさせていただきたいと思います。全体を通して何かありましたら、最後にご意見頂戴できればと思います。

(3) 素案の確認について

事務局より配布資料 P14～P16 を説明。

(松川委員長)

- ・素案の確認ということでございます。ご質問・ご意見等ございましたらいかがでしょうか。

(小林委員)

- ・資料-21 ページ、観光資源の現況図ということで燕市全部を一度に集めていただいて大変

見やすくとても良い資料だと思います。その中で、吉田地区にありますふれあい広場と、燕地区にあります交通公園は緑地のところでは出ていますが、私はここも観光資源だといつも思っていたんですが、この現況図には無くて。というのも、ふれあい広場も交通公園も市外からの子ども連れのご家族がお休みになるとわんさか来ておまして、これは両方とも燕市が誇れる家族連れにとっての最高の観光資源だと思っておりますし、市長の今期の目玉、子ども遊戯施設が交通公園のところにできるので、間違いなく新潟県で目玉になる観光施設になります。ですので、ぜひこれを入れていただきたいと思います。

(事務局)

- ・観光拠点になり得る公園・広場の関係についても、こちらの現況図の方で整理をして改めて修正をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

(横山委員)

- ・先ほどから商工農と宿泊施設とかいろんな話が出ていますが、どんなに公共交通機関の整備をして高速とかインターとのアクセスが良くなっても、まず駐車場が無いとどうしてもこの地区は盛り上がらない。今までいろんな所でアンテナショップをやった方とか若い人がいろんな取組をやって活動されている方が大勢いらっしゃるし、駐車場が無いために、なかなか継続ができない方もいらっしゃるし、継続している方も右肩上がりという訳には行かない現状があります。ネット社会ですからどんな所でも話題があれば人は来てくれるので、全体構想の中で燕市でも 2040 年には人口が右肩下がりになって高齢化率が 38%くらいに上がるという予測ですが、私の個人的意見としては、まちなかで土地が足りない方が実はいっぱいいらっしゃるって、行政の方に寄付したいという方がかなりいらっしゃいます。でも行政は引き取ってくれないし、手詰まりというのがあって、固定資産税を払い続けながら維持管理をしているという方も大勢いらっしゃいます。できれば素案の 28 ページある、土地利用の見直しで、行政が買い取って行政が駐車場を整備する、難しかったら安く借り上げて駐車場を整備する。道の駅国上じゃないですが、駐車場さえあれば交流人口は必ず増えるものだと思います。ですから、どんな施設、商業でも農業でも工業でも宿泊施設でも全てこの地区にはどうしても駐車場の整備、土地利用の見直しが必要かと思います。土地を提供してくれる方もいらっしゃると思うし、安く借りるのか行政で買い上げるのか、税金の問題もあるとは思いますが、固定資産税が減るのであれば事業者の方の商売がうまくいけば、間接的には税金が上がるような気がします。私の意見としてはこんなところです。

(松川委員長)

- ・ありがとうございます。事務局いかがでございますでしょうか。

(事務局)

- ・貴重なご意見ありがとうございました。我々都市計画課としまして、いつも空き家対策で横山さんには大変お世話になっております。
- ・中心市街地の空き家を改装して活動していくことで、横山さんに協力していただいて

いますが、宅地化したり、空き家を店舗として活用していただくとか、いろいろな方法がありますけれども、横山さんがおっしゃるような駐車場もまた、重要な問題だと認識しております。実際先ほどもあった宮町のような市街地のプロジェクトの中にも駐車場をどうしていくのか、という問題も出ておまして、そういった事も関係者の方といろいろ議論を進めている状況もあります。少し話がありました道の駅国上の駐車場の問題とかについても、市の方としても十分認識しているところではございます。そういったところを踏まえまして、素案の中に加えられないか検討して参りたいと思います。

(樋口委員)

- いくつか気が付いたところをお話しします。7 ページに「⑥カーボンニュートラルに向けた動きの活発化」と書いてありますが、ここでは「低炭素化」と書いてあるんですが、先ほどご説明いただいた 27 ページの分野別の方針では、「燕市は脱炭素社会を実現するまち」と脱炭素が目標となっておりますので、この⑥の所にもゼロカーボンシティ宣言というのがありますが、脱炭素という言葉をごここにに入れても良いかなというのが 1 つ目の意見です。
- 続いて 8 ページに燕市の現状で将来推計人口というのが書いてあります。先ほど冒頭部分が長くなるといけないので資料編にまとめましたと言われましたが、資料編の 3 ページに全く同じページが載っておりますので、どちらにするか統一された方が良いかと思いました。併せてグラフの一番下が年少人口、真ん中が生産年齢人口、上が 65 歳以上の高齢者の人口で積み上げた人口だとすると、地域別構想ではこれが反対になっていまして、高齢者の方が下に来て、真ん中が生産年齢、上が年少人口になっていて、若干見え方が異なりますので、どちらかに統一された方が良いかと思えます。地域別の人口は、一番上に年少人口の数が載っていますが合計値が書いていないので、今更ながら地域別のグラフは合計値も書かれた方が良いでしょう気がしております。
- 3 つ目は 35 ページ、真ん中のバス交通の方針の 2 つ目のポチですが「高速バス、路線バスは、路線維持と乗り継ぎ改善を要望します。」とありますが、主語と対象が良くわからない文章になりますので上の鉄道交通と同じように、「関係機関に対して要望します」ということかと思えます。行政の皆さんがやる事は「努めます」「図ります」で、「要望します」がいくつか出てきますが、その場合は対象をきちんと明記した方が市民の皆さんもわかりやすいかと思えます。
- 4 つ目が 68 ページ、吉田地区のまちづくり方針図ですけれども、茶色い丸が 2 カ所出て来ますが凡例に無い。「長善館史料館、今井家住宅等の歴史文化資源の保存と活用」という同じ文言が 2 個出てきて、同じ丸が書いてありますが、もし可能ならこれは分けられた方が良いかなと思いました。地域資源群というのが凡例の要素の中に、吉田だけ出てこないのに入れておかれた方が良いでしょうと思います。あと、広域連携拠点の色も他地区と違いますので、色を変えられているのか、意味合いが違うのか市民の皆さんわかりにくいと思いますので、凡例をご確認ください。
- もう 1 点だけ。73 ページです。とても素敵な言葉が出てくるんですけども「交流・応援（燕）人口」という言葉が出てきます。このエンは燕の方を外側に出されて括弧の中に援を入れたら良いのではないかと思いました。以上 5 点お伝えしました。

(松川委員長)

- ・他にもいくつかあるのかもしれませんが、引き続き先生の方からも気になった事がございましたら事務局の方にご指摘ください。
- ・私も非常に細かい事ですが、ちょっと良くわからなかったのが1番最後の分水地区の78ページに「国上山周辺に文化・交流拠点の位置づけ」ということで方針図に記載いただいているようなのですが、どれなのかよくわからなくて。地域資源郡という丸が付いていますが、文化・交流拠点は追加されていないのか私の理解ができていないのか、どれが該当するのかよくわかりませんでした。

(事務局)

- ・資料の表記を正しくすればよかったです、ここで追加した部分は、今ほどお話いただいた地域資源郡を位置付けとして追加したのと、それぞれの施設を細かく落とすといった修正でした。この部分についてお配りした横版の資料の表現が正しくなかったということでご理解いただければと思います。よろしくお願ひします。

(松川委員長)

- ・全てを見つけられた訳ではないですが気になる所があるかもしれませんので、もう一度よく事務局の方でご確認いただき、コンサルさんと調整いただきながらなるべく抜けがない、より適切な記述になるように引き続きよろしくお願ひいたします。
- ・では、今ほどいただきましたご意見を反映させたもので都市計画マスタープランの素案を完成させたいと思います。策定委員会としてこのような形で開催する機会が本日で最後ということですので、修正内容につきましては事務局と私に一任をさせていただきたいと思ひますがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
- ・内容が決定しましたら、市長に対して提案するとともに委員の皆様へ改めてご報告をさせていただきます。
- ・また、最後に都市計画マスタープランの策定に当たりまして委員の皆様から一言ずつではございますが、ご意見やご感想をぜひいただければと思っております。小林副委員長から反時計回りで順番によろしくお願ひいたします。

(小林委員)

- ・皆様、委員会にご参加いただきましてありがとうございました。こういう委員会にしては積極的にたくさん皆様から意見をいただきまして、大変活発な会で良かったと思ひます。皆様が燕市の将来の都市計画について情熱を持っていらっしゃるということがとても良くわかった良い機会だったと思ひます。皆様どうもありがとうございました。事務局の皆様もご苦勞様でした。先生どうもありがとうございました。以上です。

(山崎委員)

- ・委員長のリードでスムーズに進んだ感じを受けております。全体的によくできているのではないかとと思っております。

(藤田委員)

- ・初めてこういう会に入れていただいて、燕市全体なんて普段はあまり考える事が無いですが、自分の事ばかりでなかなか全体を考える事が無い中で、人口が本当に減っちゃうんだなあというのがすごく身に染みて、人を増やそうと市長が一生懸命、交流人口とか子育て支援とかやっている訳で、魅力あるまちにならないと人口も増えないのでぜひとも微力ながらお役に立てるようになっている次第です。本当にありがとうございました。

(本田委員)

- ・最初はお力になれるのかどうなのかという心配からお邪魔させてもらった委員会でしたが、先日送られてきた素案を読みまして、小さいまちながらいろんなものがたくさんあって、とても魅力のあるまちだということをすごく感じました。また、何かこういった機会があれば少しでも市のためにお力になれば良いなと改めて思いました。事務局の皆様、先生方どうもありがとうございました。

(横山委員)

- ・この都市計画マスタープランは 20 年後の燕市がこうなってほしいということで、昨今非常に変化が激しいと皆さん思われていると思います。5 年に 1 回の見直しですが、必要であれば 5 年と言わず 3 年でも 4 年でも 6 年でも必要に応じていろいろ見直しして行って 20 年後は素晴らしい燕市になるように、私も陰ながら応援したいと思います。本当にいろいろとお世話になりました。ありがとうございました。

(上村委員)

- ・今年度に入りまして 2 回の参加でございましたけれど、皆さん大変長い間お疲れ様でした。私どもとしましてもこのマスタープランの推進に関わる事業を多数実施しておりますので、こちらに書かれている事業を確実に、また今後の構想ということも盛り込まれていますので、また燕市と相談して行きながら、できるだけ具体化を早めにするように取り組んでいきたいと思っています。
- ・景観ですとか燕市の中だけでなく隣接の県央地域全体に関わる記述もごございますので、周辺市町村とのつなぎ役としていろいろとご相談をいただければと思いますのでよろしくお願いたします。大変お疲れ様でした。

(酒井委員)

- ・いろいろとお世話になりましたありがとうございます。今日が最後ということですが、先ほどもお話があったように燕市も人口がどんどん減っているということで、これは燕市だけではなく、全国的な傾向です。そういった中でも、ふるさと納税が 2 位になりましたけれども新潟県の上位の方ということで、やはり工業製品なりお米なり農産物とかがいろいろと評価されている結果だろうと思っています。今後これをさらに発展させていただけるようになれば良いと思っています。
- ・事務局の方にはこのマスタープラン、かなりの量をきちっとまとめていただきまして大変

ご苦勞様でした。またひとつよろしくお願ひいたします。

(田邊委員)

- ・都市計画マスタープラン策定委員会に参加させていただきまして大変勉強になりました。また農業といたしまして先ほど申し上げました 84.3 ヘクタールの基盤整理をいたしまして 11 億 7956 万かかったんですけれども国から 50%、県から 30%、市から 10%、10%の負担金を受益者で持つということでございますが、これも当時、地域振興課の堀江さんという方が平成 19 年に基盤整備すると手を挙げたときに、法人を作ってその中で集積すると補助金が出ますというような指導の下で令和 3 年 9 月 9 日に全部登記も終わりました、竣工式を 11 月 12 日にやる訳でございます。この都市計画マスタープランについては大変勉強になりまして、今後とも農業を経験した中で新しい農業経営者が生まれるようになってくれば良いなと考えております。大変ありがとうございます。

(樋口先生)

- ・皆さんお疲れ様でした。委員長はじめ皆様が非常に丁寧に議論され、事務局の皆様がそれに対応されて立派な都市計画マスタープランができたと思います。先ほどお話がありましたように人口減というのは全国的に不可避でございます。その中でこの燕市はものづくりですごく頑張っておられて、県内でも人口減が他に比べると緩やかかなと思います。ですが放っておいてはその状況は維持できませんので、もう少し磨いていただければこの都市がもっともっと光り輝くと思います。ものづくりのまちが燕なら、私どもの新潟工科大学も、ものづくりの大学ということで PR しております。先ほど宮町で連携という話もありましたが引き続き連携させていただきながら、両者が良い関係になれば良いなと思っております。関わらせていただきまして、どうもありがとうございました。

(松川委員長)

- ・ありがとうございました。以上で本日の策定委員会での協議事項は全て終了になりましたのでこれで議長の任を解かせていただきまして、進行を事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございます。

4. その他

(高波部長)

- ・松川委員長、大変ありがとうございました。次に次第の 4. その他についてですが、事務局の方からは何かありますか。

(事務局)

- ・今後の予定につきましてご説明をさせていただきたいと思っております。横版の資料の 17 ページに今後の策定スケジュールを載せさせていただいております。先ほど委員長からもお話がありました通り、策定委員会は本日が最後の会となりまして、本日いただいた意見をもとに素案を完成させていただいて、市長へ素案の提案を行いたいと思っております。
- ・その後、12 月上旬頃に市議会への報告と 12 月中旬以降に都市計画審議会の意見聴取を行

う予定です。その後、1 月頃には広く市民の皆さんから意見をいただくため、パブリックコメントを実施しましてそちらでいただいた意見について都市計画マスタープランに反映いたしまして、マスタープランの完成度を上げて行きたいという風に考えております。ですので、本日もご検討いただいて修正を加えた素案について今後、策定員会以降も内容の変更があらうかと思っておりますので、そちらの部分についてご理解いただければと思います。パブリックコメントの意見を反映した原案につきまして市議会に報告、都市計画審議会に諮った後、マスタープランの公表となりますのでよろしく申し上げます。

- ・加えまして、委員の皆様ごの任期につきましては、今日で会議自体が最後になる予定ですが任期につきましてはマスタープラン策定の日までとなっております。策定自体は来年 3 月頃を予定しております。今後につきましては各所からの意見をもとに大幅な内容の修正が出た場合など、改めて委員の皆様から意見をお伺いする必要がある場合につきましては、委員長と協議をさせていただいて委員会の開催の判断をさせていただければと思っておりますのでよろしく申し上げます。事務局からは以上です。

5. 閉会

(高波部長)

- ・以上をもちまして第 5 回燕市都市計画マスタープラン策定委員会を終了させていただきます。委員の皆様におかれましては 2 ヶ年の長い間に渡りまして都市計画マスタープラン策定委員会にお付き合いをいただき、貴重なご意見、ご協議をいただきました事、改めてお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。
- ・以上で終了させていただきます。ありがとうございました。

以 上